

福沢諭吉との交流

菅治兵衛の足跡

瑛訪 匠探

(27)

福沢諭吉と交流のあった菅治兵衛（すげへえ）について、神奈川県立歴史博物館から問い合わせがありました。

菅は明治時代の人で、樺海小学校の前身・作新（さくしん）学校を創設するなど、教育や政治経済活動に私財を投じ、文明開化の動きのなかで、その活動は大きな足跡を残しました。

樺村（樺海地区）の豪農に生まれた菅は、若くして佐倉藩校（現在の佐倉市）に学びました。故郷に帰った菅は、1869年（明治2年）36歳

の時に私費を投じて学校を設立しました。これが私塾「作新精舎」で、明治初頭の小学校設立のさきがけとなりました。

佐倉藩校から招いた高野隆ら教育者と明治12年民権派の政治結社「協和社」を結成し、作新精舎で演説会を開くなど政治活動にも力を入れました。

福沢諭吉は、三度の欧米視察を経て明治元年に慶應義塾を設立し、思想家、教育者、ジャーナリストとして活躍しました。

今回、福沢が菅治兵衛にあてた手紙が見つかったことで、調査依頼がありました。

福沢と菅との手紙のやりとりは、明治12年から同29年まで17年におよび13通が確認されています。

菅は福沢らを中心として結成した東

京の社交クラブ「交詢社（こうじゅんしゃ）」に入会したことで、明治13年ごろから交流が始まったようです。

やりとりした手紙の内容は、おもに「金銭貸借」に関するものです。菅の生家が醤油醸造業を営む豪農だったとはいえ、明治初年から学校設立や政治団体結成、明治13年から同17年まで県会議員を務めるなど多額の費用が必要だったでしょう。

20年代後半の手紙から、それら不足資金は福沢を通じて工面していたようで、菅は福沢名義の千葉県内の土地処分に関係するなど菅が1歳年長だったこともあって、福沢から大きな信頼を得ていたようです。

明治時代後半の菅の活動は、民間の社会教化団体・日本弘道会の匠瑛支会の設立、匠瑛農商銀行設立などに尽くしました。また、樺新田開発のよつすをまとめた『樺新田開墾事略』を出版するなど文化面での活動も知られています。

菅治兵衛は晩年、「憂を忘れ道を楽しむ」生活を送ったとされ、大正7年86歳の生涯を終えました。



常福寺（樺）にある菅治兵衛の碑